

平成 28 年度第 2 回ふれあい座談会

| | |
|----------|---|
| 主催 | ふじみ野市私立幼稚園 PTA 連合会 |
| テーマ | ふじみ野市の子育て・教育環境等について |
| 日時 | 平成 29 年 1 月 12 日(木)午前 10 時～11 時 30 分 |
| 場所 | フクトピア 1 階 A 会議室 |
| 参加者 | 29 名 |
| 市出席者 | 市長、秘書室主幹、広報広聴課長、広報広聴課主査 |
| 《主な意見等》 | |
| 広報広聴課長 | 開会に先立ち、ふじみ野市長よりご挨拶を申し上げます。 |
| 市長 | 皆さん、おはようございます。今日は大変お忙しい中ご参加いただき、ありがとうございます。今日は日頃皆さんが感じていること、こうしてもらいたいと思うこととお話しいただければと思います。単に要望を聞くということではなく、実際に子育て中の皆さんの思いを伝えていただくことで、これを直接市政に反映できればと思っております。現在行っておりますタウンミーティングの場などでも、市民の方から、かつては自治体に要望のあった道路の側溝の掃除について、グレーチング（側溝の蓋）を小さくしてくれたら楽に動かせて自分たちでもできるから改善してほしい、といった嬉しいご意見がありました。現在の厳しい財政状況の中、皆で協力、努力して、限られた財源を必要なところに使うようにしていますが、中でも私が一番力を入れているものが子育て支援についてです。現在ふじみ野市は 0 歳～14 歳の若年人口の増加率が県内第 1 位で、今もどんどん増えています。私は、子どもたちに使う費用は「経費」ではなく「投資」だと思っています。子育て関連の施策についてふじみ野市では可能な限り力を入れていこうと取り組みを進めている中、実際に子育て中の皆さんからの話を聞くことが大事だと思っておりますので、今日は忌憚のないご意見をいただき、「あったかいまち ふじみ野」の実現に向けて反映させていきたいと思っております。今日はどうぞよろしく願いいたします。 |
| 広報広聴課長 | それではこれより進行を会長様にお願いしたいと思います。会長様、よろしく願いいたします。 |
| 加藤会長（進行） | おはようございます。今日は皆さまお集まりいただき、ありがとうございます。ご説明いただいたとおり、今日は自由に、忌憚なくお話をさせていただくということで、今日の会を楽しんでいただければと思います。また、今日は育児に関することだけではなく、普段感じている |

ことを何でもお話ししていただきたいと思います。では早速、ご意見のある方、よろしく申し上げます。

参加者 毎年新年に開催される「ロードレース大会」に親子で参加しています。また趣味でジョギングなどをするようになりました。1月号の市報で市長のご挨拶に「スポーツ施設の整備」を進めていくとありましたが、現在は一般道を走るなど、なかなか良い練習環境が探せずにいる中、スポーツ施設の整備計画などありましたら、周辺に走ることでできるスペースを作ってもらいたいと思います。

市長 スポーツ施設の充実については、旧県立福岡高校を埼玉県から購入し、校舎を解体して、基本的にはサッカーと野球が併用できるグラウンドを整備しようと思っています。また隣接の運動公園は、現在4面のテニスコートを6面に増やす計画と、プールを解体して多目的広場を作る計画を進めています。ジョギングなど走る練習も可能だと思います。広いコースを作るといのは難しくても、走るスペースの確保は可能ではないかと思っています。また、大井総合体育館も改修工事を行い、アリーナの拡張と、武道場をサブアリーナとして改修する計画を進めています。今後は老朽化した2つの弓道場を1つにまとめて新しく作っていかうと考えています。今は危ないからと子どもたちがボール遊びをする広場がなく、こういったことは考え方で解決できる部分もあるのかとは思いますが、少し話がそれましたが、元気・健康に結び付けて医療費や介護費の抑制にもつながるものとしても、スポーツ施設の充実をしていきたい、今お話にあったジョギングコースなども可能な所に配置できればと思います。

参加者 以前住んでいたまちの児童館に週2回児童カウンセラーが来ていたのですが、当時悩んでいたマンションでの騒音問題について聞いたところ、「騒音が問題にならないマンションや地域は、住民同士の挨拶などができているところ」と言っていました。普段から挨拶できる関係であれば、少しの音も許せたり、逆の立場でも気軽に謝ることができたりと、後にしこりが残らないのではと。これは、先ほどお話に出たボール遊びにも通じることだと思います。地域の方と挨拶をするなど、親や大人が子どもにそういった姿勢を見せていかないといけないと思います。また気になることとして、以前、小学生の子どもたちに注意をしたときににらまれて舌打ちをされたことがあり、怖いと感じたことがありました。その子どもたちも、普段から親が他の大人に丁寧な接し方をしていればその親を見て育ち、大人を軽視することはないのではないかと思います。

ところで、現在の子育て支援施策で、子育て世代の人口を増やしていこ

うという取り組みがあると思いますが、その一つとして外国の方を積極的に受け入れる、外国の方が住みやすいまちづくりをするということが考えられると思います。外国の方を対象とした市としての取り組みや、市長のお考えなどがあれば伺いたいです。

市長 人口増加の方策の中で、外国の方の受け入れも1つの有効な手立てだと思います。ふじみ野市も外国の方は現在二千数百人（平成29年1月1日現在外国人登録人口：2,239人）が居住されていますが、ふじみ野市では「ふじみ野国際交流センター」などで、外国の方や帰国子女に対する日本語教室の実施など、日本語が全く使えない方々に対するサポートが充実しています。ボランティアの方々がNPO法人を立ち上げて始まったものですが、口コミでふじみ野市を知り住まわれている方もいるようです。ただ中には、外国の方に対してご理解いただけない住民の方もおり、行政として外国の方を増やしていこうとすると、批判の方が多いかもしれません。例えば駅周辺で深夜に外国の方による無謀な行為があるなど、それを見た住民感情としては受け入れがたいものがある場合もあります。外国の方にマナーやモラルを守ってもらう中で、外国の方との接し方や、市の受け入れ方も慎重に考えていく必要があると思います。

参加者 学生時代に住んでいた寮で外国の方とトラブルになる最初の原因は衛生観念の違いでした。例えばごみの分類のことなど、外国の方が移住してきたときにパンフレットを渡すだけではなく、分からない点を補えるようなアドバイスが市からあるとよいのではと思います。そのように少しずつ融和していくとよいと思います。

市長 ありがとうございます。やはり文化の違いで、外国の方も自国のやり方を当たり前と思っていることもあるので、この国やこのまちのルールを分かってもらうよう働きかける、例えばふじみ野市は観光地ではありませんがトイレに多言語で表記をしています。そのようにこちらの姿勢を示していくことも大事ですので、ご意見を参考にさせていただきます。

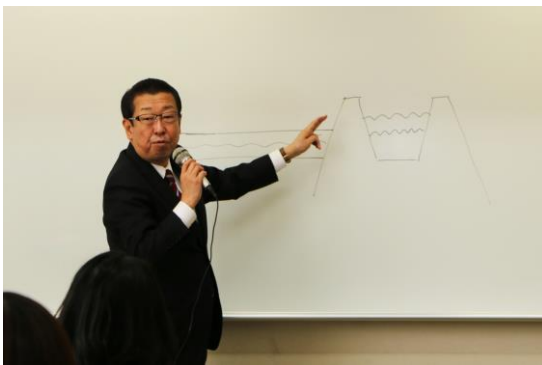
参加者 イオンタウンの新設について、周辺の交通渋滞が予想されると思いますが、車は思わぬ道を抜けたりするので事故も起こりやすいと思います。子どもが通う学校側からの指導もあると思いますが、市でも安全対策を図っていただきたいと思います。

市長 大型店出店に伴って交通量も増えるということ、また休日には駐車場待ちの列ができてしまうなど、交通環境が変わってくると思います。このこ

とについては市も警察と協議をしながら、開発者であるイオン側にも侵入方向や歩道の拡幅などさまざまな要望を出しております。来秋頃オープン予定、工事開始は今秋頃と聞いております。交通安全には万全の配慮をしていきたいと思っております。

参加者 昨年夏に元福小裏の川が増水し、避難準備情報が出たと思いますが、実際に川はどの程度の状態になっていたのでしょうか。何m増水と言われても分からないのですが、例えば今までにないくらいの増水だったなど、どのような状況だったのかを知りたいです。また、避難準備情報を私が知ったのはだいぶ後でした。放送などが流れていたのかもしれませんが、雨がひどく聞こえませんでした。避難準備情報に気付いてもどこに避難すればよいのか、そもそもどの程度の被害で避難準備情報が出るのかなど、昨今の異常気象で今年も同じような状態になるかもしれないので、分かる範囲で教えてほしいです。

市長 (ホワイトボードで図解説明しながら) これが新河岸川です。昨年の台風の折だったと思いますが、新河岸川の上流部で雨が降りました。一帯に降った雨は川越江川都市下水路に流れるのですが、普段は低い水位なのですが、この日は満杯になってしまいました。当然新河岸川に流れ込んでいるのですが、この川の水位が上がってくるのですね。しかし川というのは流体力学上、水位が上がっても水は下水路に吸われていくのです。ところがこの時はあまりにも水量が多いため、下水路が満管状態になって、下水路の上から水が溢れました。



実は避難準備情報は、下水路から溢れても大したことはないのですが、新河岸川の水位が危ない、溢れたら大変だということで出したもので、まず新河岸川流域の自治会長さんたちに連絡をさせていただき、それから放送局に字幕が流れるよう手配をしました。「避難があり得るかもしれない」という準備情報で、それほど危険ではなかったので、防災行政無線は使いませんでした。心配な方のために設置した上福岡公民館と福岡中学校の避難場所には、それぞれ1世帯ずつ来られました。元福岡には排水ポンプを

3カ所設置しており、前年の台風のときには大丈夫だったのですが、今回は新河岸川の上流部で大雨になったことにより水位が上がり、吸い込まれずに溢れてしまったということです。先日初めて避難準備情報を出しましたが、避難場所としては高台の場所、新河岸川が溢れても水が来ない地域ということで、上福岡公民館や福岡中学校の他、空いていれば避難場所に指定していなくても、公共施設に避難所を開設することも可能です。ただし、ふじみ野市は水害には比較的強いまちですので、よほどのことがない限り安心していただけたらと思います。

参加者 防災関係ということでは、我が家では備蓄を全く用意していませんでした。これではいけないということで、市や学校から案内のあった内容を参考に揃え始めているところですが、例えば災害発生時、市には備蓄品はあるのでしょうか。また、子どもにアレルギーがあるのですが、食料が配られるときに、そういったことに配慮されたものが配られるのかということを知りたいです。

市長 市でもいろいろな防災用備蓄品を用意しています。例えばフリーズドライの食品、パンの缶詰、新生児用の粉ミルク、飲料水などです。基本的にはこれを全ての市民の皆さん用に用意しているわけではなく、応急的に、例えば家が崩れてしまった、着の身着のまま逃げてきて何も持っていないといった方々のために用意しているものですので、できるだけご家庭で備蓄をしていただいた方がよいと思います。大規模災害が発生した時、重要なのは72時間（3日間）といわれています。この3日間の食料の確保の仕方は、ふじみ野市で1日分、埼玉県で1日分、そして皆さんのご家庭から1日分で、基本1日2食という考え方です。また避難場所にその地域の方が全て避難するかといったらそうではなく、一時的に暮らす場所のない方が避難されるもので、市としても必要最小限の備蓄をしていこうという方針で取り組んでいます。また循環型の備蓄ということで、粉ミルクは消費期限が来る前に保育所で使う、その他の食料についても消費期限前に、市の防災訓練時に配布するなどしながら新しい備蓄品を購入するといった運用をしています。皆さんのご家庭でもそのように循環型備蓄を行っていただくとよいと思います。

またアレルギーについては、できれば各ご家庭が、お子さん一人一人に合った対応食の確保に配慮してもらえればと思います。

参加者 大規模災害時に、自治会に入っていない人は、自治会からの援助が受けられないと聞きますが、そういった人は市役所直轄の施設で配給を受けるなどするのか、あるいは市役所から各自治会に配給が来て、それを各人

に配布するののかといった流れを知りたいです。

市長 一番大事なことです。自治会に入っていない方々に支援をしないということは、多分自治会の役員さんはなさらないだろうと思います。また市としては全市民が対象ですから、自治会の加入未加入にかかわらず、支援をしなければならない立場です。ただ重要なこととして、何かあった時にみんなで助け合っていこう、という目的で自治組織が作られてきたにもかかわらず、自治会の加入率が非常に低下している、このことが問題になっているのですが、若い皆さんの前で恐縮ですが、加入しない大半の方が若い世代の方です。「役員が回ってくるから嫌だ」「集金をするのが嫌だ」「子育てが忙しい」「夫婦共稼ぎだ」といった理由のようですが、しかし最近新たな現象として、お年寄りが自治会を辞めるといったことがあります。役員の順番が回ってきたとき、その役ができなくて他の方に迷惑をかけるから辞めるといった理由です。そういった現状については各自治会の中で、例えば該当する人は免除して、若い人で助けていこうといった話をしている自治組織の方もおられます。

また万が一の食料配布については、決まった流れはありませんが、大体各避難所で食料の分配や、臨機応変な対応があると思いますが、肝心なのは「災害は時を選ばない」ということです。例えば平日の日中に災害が起きたら、現役世代のお父さんは働きに出ていて、地元にはほとんどが女性とお年寄りと子供だけになってしまいます。そのような場合には、例えば避難場所で定年退職したばかりの働ける人や、体格の大きな中学生が一緒になって助け合っていくといったことが想定できます。また土・日曜日や夜間の災害であれば、地元に住む職員が指定避難場所の配置に就く計画も立てていますが、その時に行政の職員だけでは避難所は運営できません。そういったときに防災計画などを各自治組織で作っていただいている皆さんを中心に、助け合いが起こってくると思います。そういったときに自治会未加入者を分けることはできないと思いますが、任意ではありますが、できるだけ地域の自治組織に加入していただいて、みんなで助け合っていきたいと思います。このことについては、皆さんから各幼稚園で保護者の方々に加入のお話をさせていただきたいと思います。災害時は「自助」「共助」「公助」が大切です。「公助」は私たち行政や消防、防災関係機関ですが、「自助」は皆さん自身、災害時はまず「自助」、つまり皆さん自身を守って、その守られた命が力を合わせてみんなで「共助」を行っていくということ、これが災害発生時の対策の、一番の秘訣です。皆さんが地域の自治組織に入って、守りをどんどん固めていただけたらと思っていますので、ぜひ各幼稚園のPTAでお話ししてください。これは本当に大事な話でしたので、ご質問いただきありがとうございました。

参加者 防災関連の話ですが、東日本大震災発生時、私は上の子を妊娠中でした。妊娠前までは働いていたのですが、当時は地域に知り合いが1人もおらず、夫も勤務地にいた中で、地震が起きたとき、一番怖かったのが、今私がけがをしたり死んだりしても誰も気付かないのではということでした。現在は子どもが幼稚園に通っていることもあり、幼稚園の方や地域の方といろいろなつながりができていますが、何にも属していない状態のときはとても怖いという思いをしました。後日新聞で読んだのですが、日本人は防災意識として、自分が死んだときの想定をしていないのだそうです。災害が起きたとき、自分が生きているとは限らない、我が家なら日中（もし自分に何かあったら）子どもだけ残されてしまうということです。そのような場合のためにも、自治会の方や近所の方が自分たちの存在を知っていてくれて、「〇〇さんのお宅は大丈夫かしら」とお互いに配慮し合える関係を築いておくということがとても大切だと思います。付き合いが煩わしいという気持ちもあるかもしれませんが、例えば近年はいつ大地震があってもおかしくない、ふじみ野市は地盤が強いから大丈夫だろうといわれていますが、別の災害が起こることもあります。将来を考えると不安になりますが、自分にもしものことがあったときのことを想定しても、地域の人と交流を持たなければならないとあらためて思いました。

市長 まさにその通りです。ほとんどの人は災害時に「自分は大丈夫」という前提から入るんです。災害などが起きたとき「どうしよう」と考えるのは、前提として自分が無事であるからです。ところが自分がいなくなってしまうときに、残された子どもやご家族がどう対応するのか、もちろん逆のケースもありますが、そういった想定を日頃からしておく必要はあります。また、例えば東日本大震災が発生したとき、ちょうど市役所では3月議会の開会中でした。私も議場にいたのですが、実は私は過去に消防団員として19年活動してきて、災害対応でも比較的普通の方より冷静に動けることもあり、地震が起こったときにまずドアを開ける指示をしました。そして揺れが止まったら階段で降りてくださいという指示をしました。大きな揺れが発生すると、扉が開かなくなり、避難ができなくなる恐れがあるからです。また、市内では親が勤めに出ているなどで公立の保育所、保育園でもお迎えが来ないということがありました。さらに、市の西側地区を中心に停電がありました。停電している保育所の子どもたちのうち、お迎えの来ない子どもたちは保育所を移動して預かり、最終的に最後のお迎えがあったのは翌日の朝6時頃でした。いざという時、自分たちが命は助かっていても子どもの元に帰れないということもあると想定すること、また「備えあれば憂いなし」といいますが、備蓄品の他に身を守る道具などを用意することも必要だと思います。

進行 ありがとうございます。次に、お話ししたい方いらっしゃいますか。

参加者 学区の話ですが、文京学院大学の前にケーズデンキができると聞いていますが、その後ろに建設されている住宅地の学区が西原小になるのか、大井小になるのかをお伺いしたいです。

市長 該当の地区についてはこれから新たに学区を指定しようということで、地域から学区の見直しに関する要望が出ている中、現在学区審議会が開かれているところです。また、できるならその周辺についても弾力的な運用を図ってもらうよう、教育委員会や教育長に申し上げました。ちなみに、これまでも東燃（株）の運動場跡地や電電公社の社宅跡地の開発エリアなど、開発された住宅について販売前に学区の見直しを行った経緯がありますが、これからは、もっと大規模な学区の見直しをしなければならないのではと思っています。子どもたちが増えることはとても嬉しいのですが、各学校の児童生徒数に偏りが出てきている中、市内全体の学区の見直しをいずれはしていかなければならないという課題はあります。特に合併以前の旧市町の行政境が入り組んでいる部分等については、合併直後は弾力的な運用ということで学校を選択することもできたのですが、もう合併して10年経っているのだから学区の見直しをしてほしいという声もあります。学校の設備等に差が生じないよう、大規模改修も行っているところですが、学区についてはやはり大きな見直しを行わなければいけないのではないかと考えています。ただ、学区再編は時間のかかることであるということをご理解いただきたい、また子どもたちにできるだけ影響を与えないよう配慮したいと思います。学校の適正規模を図るだけでなく、子どもたちに対する環境配慮にも力を入れていきたいと思っています。

参加者 いろいろご検討されているようでありがたいです。引き続きよろしく願いいたします。

進行 お友達と同じ学校に通えるかということの他にも、交通量の多い所を横断しなければならないか、線路を通過するのかなど、安全面を一番に考えることもあり、調整が大変難しいこととは思いますが、引き続きご検討いただければと思います。

次に、特別な支援が必要な子どもの幼稚園受け入れについて、幼稚園も教育方針などがあり入園する子どもを選ぶ権利があるのだと思いますが、子どもたちが今後の教育環境で育っていく中、多様な人々と折り合いをつけて共存していくということに、その子が小さなときから馴染んでいく環境で育っていけることが望ましいと思います。市が幼稚園に教育方針の指

導をすることは難しいこととは思いますが、将来の社会を担っていく子どもたちに協調性を持ってもらい、多様性を認めていく社会にするためにも、さまざまな子どもたちを広く受け入れてほしいということを何かの形で幼稚園に伝えていただきたいと思います。

市長 障害者差別解消法が昨年施行され、障がいを理由とした差別的なことはしてはいけないということになりました。これは全ての環境において適用し、もちろん教育の世界にも該当します。私立幼稚園であっても発達障害のお子さんの受け入れはされていると思いますが、ただし発達障害を越える情調障害や精神障害といったことになるとその子に合った療育環境の提供が必要になるのだと思いますが、ふじみ野市としてはできるだけ、障がいの有無にかかわらず誰もが平等になるよう、例えば公立保育所であれば保育士の加配を検討する等、取り組んでいきたいと思っています。身体に障がいのあるお子さんがいれば周りの子どもたちが手助けをする等、一緒になって物事に当たっていくことが子どもの成長には非常に大事なことだと思いますので、ふじみ野市としては教育理念のある私立幼稚園であっても、そのように促していきたいと思っています。

進行 ありがとうございます。今日は緊張感もありましたが、とてもお話しやすく、私たち出席者にとっても充実感のある座談会になったかと思います。ありがとうございます。

広報広聴課長 市長からお礼の言葉を申し上げます。

市長 今日は学区の話などが出ましたが、耳触りの良いことや曖昧なこと、また先送りのようなことを言うのではなく、正直なお話をする中で、なぜそうせざるを得ないのかということを引きちと伝えて、少しでも影響の少ない方策が取ればと思ってお話しさせていただきました。私は常日頃から職員に、今までの「当たり前」が当たり前ではないということを行っています。お金がないなら知恵を使う、また額面以上に価値が上がるようなお金の使い方をして、少ない税収でも課題の解決や実現に近づけることができると考えております。ご家庭においても社会においても、子どもの笑顔が一番の宝だと思います。また、障がいの有無にかかわらず誰もが「このまちはあったかいな」と思ってもらえるようなまちにしていきたいと思っています。今日は大変ありがとうございました。

広報広聴課長 ではこれを持ちまして、本日のふれあい座談会を終了させていただきます。今日は大変ありがとうございました。